



## 2021年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年5月14日

上場会社名 株式会社サニーサイドアップグループ 上場取引所 東  
 コード番号 2180 URL <http://www.ssug.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 次原 悦子  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 グループ管理本部 (氏名) 相田 俊充 TEL 03-6894-3233  
 本部長  
 四半期報告書提出予定日 2021年5月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

百万円未満切捨て

### 1. 2021年6月期第3四半期の連結業績（2020年7月1日～2021年3月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第3四半期	10,694	△11.6	433	△41.0	501	△21.1	325	28.3
2020年6月期第3四半期	12,093	15.5	734	24.5	634	△7.2	253	△46.9

（注）包括利益 2021年6月期第3四半期 302百万円（54.9%） 2020年6月期第3四半期 195百万円（△59.6%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第3四半期	21.60	-
2020年6月期第3四半期	16.84	16.84

※当社は2019年7月11日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年6月期第3四半期	6,442	2,351	35.8
2020年6月期	5,462	2,087	37.3

（参考）自己資本 2021年6月期第3四半期 2,308百万円 2020年6月期 2,036百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期	-	0.00	-	2.00	2.00
2021年6月期	-	0.00	-	-	-
2021年6月期（予想）	-	-	-	4.00	4.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有  
 業績予想の修正については、本日（2021年5月14日）公表いたしました「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2021年6月期の連結業績予想（2020年7月1日～2021年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,500	2.9	320	△24.0	420	52.3	170	-	11.28

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有  
業績予想の修正については、本日（2021年5月14日）公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年6月期3 Q	15,191,600株	2020年6月期	15,191,600株
② 期末自己株式数	2021年6月期3 Q	128,668株	2020年6月期	128,668株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年6月期3 Q	15,062,932株	2020年6月期3 Q	15,054,765株

※当社は2019年7月11日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

○本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	10
(セグメント情報) .....	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2020年7月1日～2021年3月31日)の業績は、感染拡大と収束を繰り返す新型コロナウイルスの影響により、過去最高レベルで推移していた前連結会計年度前半の水準の勢いを取り戻すまでには至ってはおりませんが、業績は堅調に推移しております。

当社グループの基幹事業であるマーケティング&コミュニケーション事業では、毎年開催していた大型イベントの開催延期等の影響はあったものの、デジタルPR施策等、当社グループの幅広いソリューションを提供することで変容する顧客ニーズに適応しながら、既存顧客の深堀はもとより多数の新たな顧客の獲得にも成功しております。

店頭活動の活性化をはかるセールスアクティベーション事業では、大手ハンパーガーチェーンやコンビニチェーン等、コロナ禍の変化への適応を迅速に進める顧客層への提案を強化し、安定継続的な受注に結びつけています。

オーストラリア・シドニー発のオールデイダイニング「bills」を国内外で手掛けるフードブランディング事業は、営業時間の短縮や臨時休業に伴う来店客数の減少という厳しい状況が続いておりますが、固定費の圧縮やテイクアウトサービスの導入等、店舗収益力向上に鋭意取り組むと同時に、新型コロナウイルス感染症に係る各種助成金を申請しながら、事業基盤の強化に努めております。

当社グループの新たな収益源の創出を担うビジネスディベロップメント事業は、流動的な社会情勢を慎重に予測しながら事業拡大の準備を進めており、当第3四半期連結累計期間の業績は想定通りの進捗を見せています。

以上のように、新型コロナウイルス感染症による影響が続いている当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高10,694百万円(前年同期比11.6%減)、営業利益433百万円(前年同期比41.0%減)となりました。また、営業外収益にフードブランディング事業に係る雇用調整助成金75百万円をはじめとする新型コロナウイルス感染症に関する助成金等を助成金収入として101百万円計上したことで、経常利益501百万円(前年同期比21.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は325百万円(前年同期比28.3%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

なお、当社グループは2020年1月より持株会社体制に移行し、事業内容の多角化を進める中、それを再区分することで各事業の状況を把握しやすくするため、「2. (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報)」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの変更等を行っております。

以下の前年同期比については、前年同期の数値を変更後の新セグメントに組み替えて表示しております。各セグメントにおける子会社の構成は下記の通りです。

	構成子会社	セグメント変更前	セグメント変更後
※1	㈱サニーサイドアップ(※1・※2を除く)	マーケティング・コミュニケーション事業	マーケティング&コミュニケーション事業
	㈱クムナムエンターテインメント		
	㈱スクランブル		
	㈱ステディスタディ		
	㈱サニーサイドアップ(スポーツ関連部署)	スポーツ事業	
㈱エアサイド	開発事業		
※2	㈱サニーサイドアップ(コンテンツ関連部署)	マーケティング・コミュニケーション事業	セールスアクティベーション事業
	㈱ワイズインテグレーション	S P・MD事業	
	㈱フライパン	bills事業	フードブランディング事業
	SUNNY SIDE UP INTERNATIONAL, INC.		
	bills waikiki LLC		
	SUNNY SIDE UP KOREA INC		
	㈱サニーサイドアップパートナーズ	開発事業	ビジネスディベロップメント事業
	㈱サニーサイドアップキャリア		
	㈱アジャイル	—	

①マーケティング&コミュニケーション事業

第1四半期連結会計期間より「スポーツ事業」を当事業に統合し、㈱エアサイド（前期は開発事業に区分）を当事業に区分変更しました。㈱サニーサイドアップにおいてコンテンツ関連事業を担っていた部署をセールスアクティベーション事業に区分変更しました。また、セグメント名称をマーケティング・コミュニケーション事業から変更しました。

グループの基幹事業である当事業では、PRを軸としながら、プロモーション、スポーツマーケティング、ブランディング、コンテンツ開発等、時代のニーズに合ったマーケティングおよびコミュニケーションサービスを提供しており、コロナ禍においても業績は堅調に推移しております。

当社グループの中核事業会社である㈱サニーサイドアップは、「大きな話題を創出する企画力」と「強力なメディアリレーション力」を駆使しつつ、顧客層を戦略的にターゲティングすることで特定の業種・業界にとらわれない広範囲かつ強固な顧客基盤を構築しております。

また、ジョイントベンチャー設立等を通じて重点的に強化してきたデジタル領域のコミュニケーションサービスは、コロナ禍において大きく変容している社会のニーズに適応し、企画力やメディアリレーション力と並ぶ同社の強みのひとつになりつつあります。

㈱クムナムエンターテインメントでは、その強力なキャスティングネットワークとプランニング力を基盤に、日本および韓国の人気アーティストやポップグループ等を起用した多数の企業ブランディング活動およびコンテンツ開発を手掛けており、順調な業績の伸長を見せています。

クリエイティブな発想に基づくプランニングを得意とするPRブティック（少数精鋭のPRエージェンシー）である㈱エアサイドは、日本を代表するエンターテインメント企業等、固定顧客からの安定継続的な受注関係を構築しており、コロナ禍においても順調な業績を残しています。

㈱スクランブルでは、YouTubeやInstagram等のSNSを駆使したインフルエンサー・マーケティングサービスを中心としたPRコミュニケーションを手掛けております。戦略的かつ機動性の高いソリューションを提供しながら新たな顧客開発に取り組んでおり、確かな実績が出始めております。

2020年3月に完全子会社化した㈱ステディスタディは、海外ハイブランドとのビジネスの比重が高く、コロナ禍の影響を受けたものの、グループ内の連携を推進し、新たなデジタルソリューションの開発や国内の新規顧客開発において着実な成果を出し始めております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は5,634百万円（前年同期比20.6%増）、セグメント利益は927百万円（前年同期比11.2%増）となりました。

②セールスアクティベーション事業

第1四半期連結会計期間より、㈱サニーサイドアップにおいてコンテンツ関連事業を担っていた部署を当事業に区分変更しました。また、当事業の内容をより適切に表すため、セグメント名称をSP・MD（セールスプロモーション・マーチャンダイジング）事業から変更しました。

当事業では、店頭等の消費者とのコンタクトポイントにおける購買・成約の意思決定を促すためのノウハウ・ソリューションを提供しております。

㈱サニーサイドアップのコンテンツ関連事業では、タレントやキャラクターなどIP（知的財産）を活用したコンテンツ制作及び販売施策を手掛けております。当第3四半期連結累計期間においては、当初の見込みを大幅に上回る規模のプロジェクト獲得があった前年同期の実績には及ばなかったものの、IPを活用したヒット企画を多数手掛ける等、コロナ禍の中で一層高まった消費者のコンテンツやエンターテインメントへの需要をとらえた企画提案力で、好調な業績水準を維持しております。

㈱ワイズインテグレーションでは、商品キャンペーンの企画からグッズ制作、雑貨の商品企画およびOEM、国際支援団体のマーケティングサポート等を展開するとともに、自社商材・サービスの開発にも注力しております。当第3四半期連結累計期間においては、大手テーマパークでの同社企画商品の採用、コロナ禍の中でも好調を維持する大手ハンバーガーチェーンにおける大型グッズキャンペーンの獲得に加えて、プログラミング教育の必修化に伴う子ども用プログラミング学習教材「ソビーゴ」の小学校導入等、これまで取り組んできた新たな試みが着実に成果を出し始めており、前年同期の実績を上回る業績の進捗を見せています。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,071百万円（前年同期比30.5%減）、セグメント利益は338百万円（前年同期比34.0%減）となりました。

なお、当事業においては、前年同期の実績に及ばなかったものの、前々年同期の実績水準を大きく超え、コロナ禍の中でも着実な成長を遂げております。

③フードブランディング事業

第1四半期連結会計期間より、セグメント名称をbills事業から変更しました。

当事業では、オーストラリア・シドニー発のオールデイダイニング「bills」のブランディングおよびライセンスビジネスならびに海外店舗（米国ハワイおよび韓国ソウル）の管理・運営を行っています。

当第3四半期連結累計期間における各エリアの状況は下記の通りです。

各エリアの状況

<p>日本</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の流行拡大防止の観点から全店舗において臨時休業した前連結会計年度終盤の最悪期は脱したものの、依然として厳しい事業環境が続いております。感染症の流行の一時的な収束に伴い、既存店の集客は回復の兆しを見せるものの、感染症の流行の再拡大による外出自粛ムードの高まりや、緊急事態宣言の発令および自治体からの断続的な要請に応じて、既存店舗の営業時間を短縮したことで前年同期と比べ、来店客数が大きく減少しました。</p> <p>既存店におきましては、賃料減額交渉や店舗維持経費の削減に努めることに加え、雇用調整助成金をはじめとする新型コロナウイルス感染症に関する政府の財政支援策を活用することで事業基盤の維持に努めております。</p>
<p>ハワイ</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の流行の影響による外出禁止令等や渡航制限による観光客激減の影響から、2020年9月より既存店「bills Waikiki」は臨時休業しております。</p> <p>店舗の維持経費の削減に努めつつも、地元需要にローカライズした営業スタイルへの転換等を含めた営業再開に向けて事業計画の抜本的な見直しを進めております。</p>
<p>韓国</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の流行の第一波の収束に伴い、前連結会計年度の終盤から業績が回復傾向となり既存店はいずれも堅調に推移しました。</p> <p>一方、韓国2号店については、定期建物賃貸借契約の更新条件が施設オーナー側と折り合わず、当社グループが期待する収益性を確保することが難しくなったことから、その契約を更新せずに契約期間の満了に伴い2021年2月に閉店しました。</p>

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,843百万円（前年同期比37.9%減）、セグメント損失は201百万円（前年同期はセグメント利益27百万円）となりました。

④ビジネスディベロップメント事業

第1四半期連結会計期間より、㈱エアサイドをマーケティング&コミュニケーション事業に区分変更しました。

また、セグメント名称を開発事業から変更しました。

当事業は、基幹事業が安定的な収益基盤を構築する中、新規事業の開発・創出による当社グループの事業領域の拡充に取り組んでおり、その目的から投資を含めてコストが先行するモデルになっております。

当連結会計年度の期首において新たに設立した㈱アジャイルでは、各企業が有する資産やIP（知的財産）を組み合わせるノウハウを軸とした新業態・新商品の開発支援およびコンサルティングサービスの提供を行っております。コロナ禍の影響から様々な業界において新業態開発へのニーズが高まっており、また当社グループの各事業への連携も期待できるため、中長期経営視点での成長を視野に入れた事業として育成してまいります。

㈱サニーサイドアップパートナーズでは、事業シーズおよびパートナーの発掘、事業スキームの策定および事業化、新規事業の立ち上げ後における管理業務に加えて、マイノリティ投資およびソーシング活動を通じて、アーリーステージのベンチャー企業とリレーションを構築しながら基幹事業における潜在顧客を獲得しております。当第3四半期連結累計期間においては、SDGsの観点で注目が集まるフェムテック（“Female” + “Technology”）関連企業である㈱WRAYおよび㈱Cradleの2社に対して出資しました。

㈱サニーサイドアップキャリアでは、働き方の多様化と雇用の流動化に応じたリクルーティングサービスを提供しており、業績は計画通りに進捗しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は144百万円（前年同期比359.3%増）、セグメント利益は65百万円（前年同期はセグメント損失5百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における当社グループの資産合計は、6,442百万円（前連結会計年度末比980百万円増）となり、資産の内訳につきましては、流動資産が5,029百万円（同1,016百万円増）、固定資産が1,412百万円（同36百万円減）であります。また、負債合計は、4,090百万円（同716百万円増）となり、負債の内訳につきましては、流動負債が2,502百万円（同581百万円増）、固定負債が1,588百万円（同134百万円増）であります。純資産合計は、2,351百万円（同263百万円増）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2021年5月14日に発表しました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」において2021年6月期の連結業績予想（2020年7月1日～2021年6月30日）を変更しております。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,151,364	2,543,490
受取手形及び売掛金	1,219,691	1,741,412
商品及び製品	14,762	6,581
未成業務支出金	162,960	399,785
原材料及び貯蔵品	44,657	41,931
その他	420,550	296,956
貸倒引当金	△689	△338
流動資産合計	4,013,297	5,029,819
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	404,503	421,545
有形固定資産合計	404,503	421,545
無形固定資産		
のれん	400,375	369,311
その他	17,662	17,413
無形固定資産合計	418,038	386,725
投資その他の資産		
その他	669,921	649,526
貸倒引当金	△43,600	△45,306
投資その他の資産合計	626,321	604,219
固定資産合計	1,448,863	1,412,490
資産合計	5,462,160	6,442,310
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	738,068	832,020
短期借入金	161,061	540,300
1年内返済予定の長期借入金	231,724	475,637
未払法人税等	149,228	87,643
賞与引当金	-	42,066
役員賞与引当金	3,900	-
その他	636,744	524,726
流動負債合計	1,920,727	2,502,393
固定負債		
長期借入金	1,089,265	1,217,221
資産除去債務	122,697	122,202
その他	241,774	248,908
固定負債合計	1,453,736	1,588,333
負債合計	3,374,464	4,090,726



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	547,764	547,764
資本剰余金	696,127	696,127
利益剰余金	784,389	1,079,705
自己株式	△30,423	△30,423
株主資本合計	1,997,859	2,293,174
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,276	5,772
為替換算調整勘定	31,986	9,068
その他の包括利益累計額合計	38,263	14,840
新株予約権	51,574	38,334
非支配株主持分	-	5,234
純資産合計	2,087,696	2,351,583
負債純資産合計	5,462,160	6,442,310

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)
売上高	12,093,893	10,694,243
売上原価	9,947,254	8,644,572
売上総利益	2,146,639	2,049,670
販売費及び一般管理費	1,411,868	1,616,101
営業利益	734,770	433,569
営業外収益		
受取利息	339	119
受取配当金	411	556
持分法による投資利益	-	12,900
助成金収入	-	101,140
その他	3,076	22,858
営業外収益合計	3,827	137,575
営業外費用		
支払利息	3,174	9,018
持分法による投資損失	27,485	-
組合損益分配額	55,112	58,019
その他	17,895	2,894
営業外費用合計	103,669	69,932
経常利益	634,928	501,211
特別利益		
固定資産売却益	-	858
新株予約権戻入益	577	58,010
関係会社株式売却益	-	6,093
その他	-	1,200
特別利益合計	577	66,162
特別損失		
固定資産除却損	-	45,097
固定資産売却損	-	234
減損損失	218,277	10,441
その他	-	14
特別損失合計	218,277	55,787
税金等調整前四半期純利益	417,229	511,586
法人税等	224,910	185,811
四半期純利益	192,318	325,775
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△61,337	334
親会社株主に帰属する四半期純利益	253,655	325,440

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)
四半期純利益	192,318	325,775
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△78	△503
為替換算調整勘定	2,974	△22,918
その他の包括利益合計	2,896	△23,422
四半期包括利益	195,214	302,352
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	256,551	302,018
非支配株主に係る四半期包括利益	△61,337	334

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年7月1日至2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング &コミュニケーション事業	セールスア クティベーション事業	フードブラン ディング事業	ビジネスディ ベロップメント事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	4,671,219	4,421,325	2,969,929	31,419	12,093,893	-	12,093,893
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	39,155	-	2,419	69,037	110,612	△110,612	-
計	4,710,375	4,421,325	2,972,349	100,456	12,204,506	△110,612	12,093,893
セグメント利益 又は損失(△)	834,041	513,393	27,115	△5,230	1,369,319	△634,549	734,770

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	△22,592
全社費用(※)	△611,956
合計	△634,549

(※) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「フードブランディング事業」に係る減損損失218,277千円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、株式会社ステディスタディの株式を取得したことにより、「マーケティング&コミュニケーション事業」にてのれんが発生しております。なお、当該のれんの償却額は6,903千円、当第3四半期連結会計期間末におけるのれんの未償却残高は407,278千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年7月1日至2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング &コミュニケーション事 業	セールスアク ティベーション事 業	フードブラン ディング事 業	ビジネスディ ベロップメン ト事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	5,634,604	3,071,983	1,843,355	144,300	10,694,243	-	10,694,243
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	72,932	2,328	2,263	66,494	144,018	△144,018	-
計	5,707,536	3,074,312	1,845,618	210,794	10,838,261	△144,018	10,694,243
セグメント利益 又は損失(△)	927,947	338,807	△201,278	65,533	1,131,009	△697,440	433,569

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	当第3四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	691,432
全社費用(※)	△1,388,873
合計	△697,440

(※) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

- セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「フードブランディング事業」に係る減損損失10,441千円を計上しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループ内での経営管理区分の見直しを行った結果、従来、「開発事業」に含めていました株式会社エアサイドの事業、及び「スポーツ事業」を「マーケティング・コミュニケーション事業」の区分に、「マーケティング・コミュニケーション事業」の一部を「SP・MD事業」に変更しております。また、「マーケティング・コミュニケーション事業」の名称を「マーケティング&コミュニケーション事業」に、「SP・MD事業」を「セールスアクティベーション事業」に、「bills事業」を「フードブランディング事業」に、及び「開発事業」を「ビジネスディベロップメント事業」にそれぞれ変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、経営管理区分の見直し後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。